



歴史ロマン古道ニュース

【発行】歴史古街道団

ホームページ <http://rekcodan.a.la9.jp/>

事務局 〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮4-7-10 濱野千秋
TEL 042-373-7382 (事務局長)

歴史古街道団 団長 宮田太郎 TEL 090-7002-3431

“多摩丘陵から三浦半島へ” シリーズ続編始まる

武藏国と相模国の国境古道の謎に迫る

古代の“国分け”と古代道路造りの不思議

～知られざる古代国境の知恵に学ぶ～

○武藏国と相模国を分ける古街道を探る

今年の4月から始まった新シリーズ「武相国境線を探る」は、好評のうちに東京都町田市の南部「南町田」から南下しつつ神奈川県の戸塚方向に向かって探索会が順次開催されています。しかしながら前回6月8日実施予定でありました三ツ境・万騎ヶ原編は宮田講師の個人的な事情で急遽中止となりましたことお詫び申し上げます。その分は9月30日

に再び開催すべく予定を入れることに致しました。

古代・飛鳥時代の国分けの際に、派遣されて来た当時の国の測量官や、国司・郡司たちが実地と一緒に立って境界を決定していくことを想像しながら現地を探索することの面白さは計り知れないものがあります。これから秋の探索ウォークシリーズにぜひ皆様のご参加をお待ちしています。

○古代武藏国の交易道路 「古代武藏国の郡街道」 発見?!

古代の武藏国府は、日本一広い関東平野の中央に位置し、且つ、川の氾濫などの災害に強い立地に造られ、さらにそこから放射状に古代官道が計画された規則性がみられ、その一つが府中の国府から多摩丘陵の横浜市内を斜めに通過し、二つの郡役所を結んで東京湾の金沢六浦湊(国府が管掌する交易港だった?!)に至っている(1997宮田)——という考え方を立証するため、地道な実地調査を今も続けています。その成果も活かしつつ、さらにはその古道近くを並走している「武相国境線古道」の役割や意義も



瀬谷の草原に残る武相国境付近の古道

皆さんと解明していきたいと思っています。

また、1996年頃から宮田団長が保存運動を展開した小田急線「新百合ヶ丘駅」北方の川崎市麻生区万福寺地区に残された幅10mの古街道跡(伝・鎌倉古道)の保存活動では、残念ながら新都市計画の元では実現できませんでしたが、この古道跡が府中~稻城市の京王稲城駅の南の山林内付近に残る「大道」「打越」地名に沿う推定古道跡から、横浜の金沢六浦湊に続いていたとみています。この交易道路全体像を念頭に武相国境古道を探っていきます。

○金沢八景の「六浦湊」こそ武藏国府が管掌した交易拠点だった



古代の官営の施設跡か『金沢称名寺』

金沢八景の称名寺は、よくみると中世寺院でありながら後背地にある山から少し離れた位置に方形に造られており、また洲崎という砂州の先端まで延々と

参道が直線的に続き、参道周辺地域も含めた仙台・多賀城跡のような「古代官衙群」の存在を思わせます。

鎌倉郡は相模国に属しますが、金沢六浦湊は武藏国のはずである久良郡にあり、そのすぐ目の前の「野島」へと武相国境線が引かれて終わっている事実に注目したいと思います。これらから、金沢称名寺のあるエリアを中心とした平潟湾一帯は、武藏国久良郡衙が運営し、武藏国府が經營・管掌した官営湊であり、東京湾と奈良の都を結ぶ最も近い湊だったのではないかという仮説が浮かび上がります。

(次ページへつづく)

(前ページより)

東京の府中(国府)から真っ直ぐ直線に「都筑郡衙(市ヶ尾)」「久良郡衙(弘明寺付近)」さらに「金沢六浦湊」へと道や測量ラインが続き、しかも唐国の制度に倣った見事な里程間隔で出来ていること(30里=約16kmごとに駅家や郡

衙を設置)には大変に驚かされます。府中からは多摩川沿いに品川湊を目指した道もありましたが(品川道)、陸路で多摩丘陵を斜めに横断しつつ金沢六浦湊に真っ直ぐ向かう道もあったのではないかでしょうか。

せがみいけ

◎巨大なスリバチ地形の谷底に鎮まる神秘の「瀬上池」探検

「武相国境古道」は金沢湾と古都・鎌倉を分ける小高い尾根の上を南北方向に走っています。そこには巨大なスリバチ状に山が囲む深い谷があり、底には神秘の池「瀬上池」があります。そこから大船へと下る「いたち川」は160万年前の大型の貝の化石が渓谷に見られ、貴重

な動植物の宝庫ともなっています。谷沿いには縄文のムラや奈良時代の集落、製鉄遺跡、横穴古墳群が広がっています。タタラ氏たちの道とも言われる武相国境線から神秘の渓谷を探検していきましょう。(冬~春に予定。)

宮田太郎団長と行く 歴史ロマン探索ウォーク& 歴史講演会(学習会)

日帰り探索ウォーク

“武相国境線”の謎を探る④

2012年 7月8日(日)

「万騎ヶ原～戸塚」

【内容】地名の「万騎」は馬牧なのか、戦の際に騎馬が集結する陣城なのか。武相国境古道は大きく東西方向に走りながら戸塚駅の東方へと尾根上を続いている。古代飛鳥時代に何者かが国分けをしただろう…その基準線を探る第4弾。



【コース】午前10時 相鉄いずみの線「南万騎ヶ原駅」改札口前に集合～万騎ヶ原こども自然公園(北条時政軍炊き出しの池～武相国境の案内板～昼食(公園内で各自弁当昼食)～保土ヶ谷区と旭区の境の都塚～鎌倉街道中ノ道と国境古道X型重複点～横浜新道横断～品濃町～境木地蔵尊～旧東海道～一里塚～JR東海道線「東戸塚駅」。約6キロ。解散は15時45分頃。

座学講座 古代史ロマン講座 古事記再検証!

古代サガム(相武)王国と厚木の高松山古墳 2012年 7月29日(日)

～ヤマトタケル草薙剣の舞台は厚木だった～

【講師】古街道研究家 歴史古街道団 団長 宮田太郎

【内容】初めて古街道団が測量したことでの本格調査の弾みが付いた厚木の高松山山頂の「高松山古墳」が、市により本調査を実施する方向で検討会が始まっています。昨年の6月の試掘での成果を受けて、弥生時代から古墳時代に移行する時期の前期古墳である可能性も含めて、いよいよ本調査でその真を確かめるべく準備を開始するわけです。

『日本書紀』に比して、信頼性がより高いと言われる『古事記』のヤマトタケル東国平定記述では、東国に向かう途路で豪族に火攻めに遭い草薙剣を振るう話が登場します。その舞台は「さがむのくにおのぬ」=神奈川県厚木市の小野とあり、定説のようになつた静岡県

の焼津ではなかつた可能性が高いのです。かつては地元の誇りであった説話も、明治天皇の陸軍近衛師団の演習御高覧からは、地元にとって当方が皇太子を攻めた賊軍の地であつてはならないという配慮から、古墳の古い埋葬遺体を除去してお立ち台を造り、行幸後は誰もが古事記の記事は口にしなくなつたのかもしれません。しかし厚木の小野周辺には、弥生の墳丘墓を壊して造られた最古級の岡津古久古墳や、その後に続くホウダイ山古墳、愛甲大塚古墳、地頭山古墳、小金塚など古い古墳が多く有り、古代サガム(相武)国を中心地であつて、ヤマトタケルの侵攻を当初は阻んだという歴史ロマンが見えてくるのです。全国でも最古級の前期古墳に属す可能性も含めて、団長自らが、厚木市民・神奈川県民に歴史資源活用の新たな道づくりを問いかけていきます。

【会場】厚木市文化会館 4階 集会室 { 厚木市恩名1-9-20
TEL 046-225-2588(代)

【時間】14時～16時(開場は13時45分)

【参加費】500円(資料代) 申し込不要。当日会場受付へ
定員100名(先着順)

主催・問い合わせ：歴史古街道団 宮田 TEL 090-7002-3431
メール kokaido@r3.dion.ne.jp

アクセス：小田急線「本厚木駅」北口から南北方向徒歩13分。
路線バスは本厚木南口14番乗り場「東京農大行き」または厚木バスセンター9番乗り場から「船子経由・森の里行き」。文化会館前下車。

座学講座

鎌倉時代秘史!

知られざる義経・弁慶の拠点発見!

2012年 8月25日(土)

源氏と熊野武士団・多摩丘陵の地下活動の謎

【内容】 鎌倉幕府の拠点であった古都・鎌倉と、武藏国府・府中の間には深く幾重にも谷戸があり込んだ多摩丘陵があり、彼ら源氏と支援する熊野修験者の行動を覆い隠すような安全地帯でもあった。そこで綿密な計画は練られ、源氏再興を願いつつ遂に兄・頼朝と再会した直後の義経は、府中・分倍河原の高安

寺の宿泊施設と、小田急線の向ヶ丘遊園付近にあった兄・今若の威光寺や、新百合ヶ丘、柿生、鶴川などの家臣団の拠点、後白河上皇の娘たちの隠棲地を根城に、謎の空白時期である3年半を平家打倒・源氏再興のために費やしていく——誰も書かなかつた多摩の秘史をいま少しづつ明らかにしていきます。ぜひご参加下さい。

【会場】 多摩市関戸公民館 VITA8階 第3学習室

【時間】 14時~16時30分(開場は13時30分)

【参加費】 700円(資料代)

申し込不要。当日会場受付へ 定員40名(先着順)

日帰り探索ウォーク 6月8日の振り替え分

“武相国境線”の謎を探る③

2012年 9月30日(日)

「三ッ境のたつ道～緑園都市・万騎ヶ原編」

【内容】 6月に実施できなかつた分の振り替え。7月8日実施予定の「④万騎ヶ原から戸塚」より1回分、コースは逆戻りしますが、三ツ境から「たつ道」の名で続く武相国境線を追っていきます。旭区と瀬谷区の接する善部町で東へ大きくカーブする国境線の方向変更の謎、和泉川と二俣川の流域の違いや古道の計画の関係を考えるとき、古代人の頭の良さを実感できることでしょう。頼朝や北条義時、畠山重忠らの伝説で知られる万騎ヶ原に続く国境線は、雄大な相模野の最後の頂上に関わる重要な古街道です。

【コース】 相鉄「三ツ境駅」改札口前広場に午前10時集合～家の樂老台～武相国境線「たつ道」～長屋門公園～阿久和のファミレスなどで自由昼食～善部神明社と妙蓮寺～大きくカーブする武相国境線の謎～相鉄いずみの線「南万騎ヶ原駅」

約5キロ。

解散は

15時30分頃。



日帰り探索ウォーク

みえてきた中世意外史!! 源頼朝の最期の真実

2012年 10月16日(火)

～頼朝は丹後局屋敷で最期を迎えたか～

【内容】 源頼朝ほど面白い歴史人物はいない。神奈川県内各地での現地聞き込み調査から、その波乱にとんだ人生に垣間見られるものは、武家の棟梁でありながら、決して厳つい顔ではなく、実に涙脆く人情味あふれる人物であり、青春時代の真面目な恋愛を引きずりながら最期を劇的に迎えた男の姿だった。誰も書かなかつた東国政権を打ち立てた棟梁の真実の姿、どうして・どこで・なぜ亡くなったのか——この疑問を現地に立って皆さんと解き明かしていきたいと思います。

【コース】 JR東海道線「茅ヶ崎駅」改札口ビュープラザ前に午前10時集合～中海岸の砂丘と川上音二郎邸跡～嚴島神社～旧東海道～駅前通りの複数の飲食店で各自自由昼食～京鎌倉往還～千ノ川～佐塚様の塚山(鎌倉鶴岡八幡の最古の元宮跡)～本社宮～大庭景義伝説地～丹後局屋敷跡と「島津忠久のえな塚」～龍前院～鶴嶺八幡宮と京鎌倉往還～旧相模川橋脚遺跡～今宿から路線バスで茅ヶ崎駅。約6キロ。解散は15時45分頃。

1泊2日バスツアー

フットバス＆シンポジウム

古代遺跡の宝庫 “常陸国・行方”

フットバスとは英国から来た新しいかたちの地域活性の方法であり、直接的には「小路」「小径」を指し、どんな町にでも人の営みがあるところ、山里の奥まで、津々浦々に「道」があり、それを活用することで、地域の持つ素晴らしさを実感しようという試みです。

里山を歩き、来訪者を迎えてくれる地元の方たちとの交流は、「また行ってみたいくなる」「第二の故郷みたいに感じる」など、これまでに通過型の観光ではできなかつた心の旅が出来るのです。これはまさしく古街道団の考え方と大いに重なる部分があると考えられます。

町田市観光コンベンション協会内に設置された「日本フットバス

11月3日(土)～4日(日)

協会に昨年、団体加盟した当団は、毎年の各地でのシンポジウムとフットバス体験に今後も参加していく予定です。そして今年の大会は関東の茨城県“行方”に決定しました。

観光帆かけ舟で知られる霞ヶ浦に面した行方は古墳群や古代遺跡が多く、またその昔、多摩丘陵の多摩市唐木田や町田市小山地方に来住した島崎氏の本拠地もありました。謎の多い両地方の因縁があるわけです。団員の皆さんとぜひ行方の素晴らしさと面白さをこの機会に満喫したいと思います。

※詳細につきましては、追ってお知らせいたします。

ガイドリーダーと行く史跡探索!

大姫と木曾義高 悲恋の鎌倉を訪ねる □ 2012年 9月21日(金)

【内容】

木曾義仲を警戒した源頼朝は、人質を要求し、義仲の長男清水冠者義高を鎌倉にさし出させた。名目は頼朝の長女大姫との婚約の為としたが、六歳の大姫は義高を未来の夫と信じこんだ。だが朝廷の信任を失った義仲は義経の率いる東国軍に攻め滅ぼされ、義高も追われる身になった。政子や大姫により助けられ、館を脱出した義高だが、追手がかかり、入間川の畔で斬られた。大姫は食を断って衰弱し、廃人のよう

【コース】

JR横須賀線「大船駅」南口改札集合(10:00)～鎌倉湖行きバス乗車～常楽寺バス停～常楽寺～義高塚～高野切通し～六国見山～円覚寺(各自弁当昼食)～長寿寺～亀ヶ谷切通し～岩舟地蔵堂～淨光明寺～寿福寺～鶴岡八幡宮(15:30頃解散)

連絡先 / 松本 英明 ☎ 090-1255-3807

生活を続け、十九歳で亡くなり、岩舟地蔵堂に祀られている。義高的首は常楽寺の丘の頂上に葬られている。今回のウォーキングは許嫁の仲を裂かれた二人の哀れな死を悼み、供養の合掌をしたいと思います。

なおウォーキング当日荒天のため中止となった場合は、翌週9月28日(金)にあらためて実施することにいたします。

あおい 青渭神社の獅子舞見学と稲城の散策 — 進藤団員が法螺貝と笛で獅子舞行列に登場! —

【内容】

稻城市東長沼の青渭神社の獅子舞は、毎年10月の例大祭日に奉納されます。その由来については、江戸時代中頃の安永4年(1775)以前に遡るとされ、獅子の構成は三頭で、大[おお]獅子、求[きゅう]獅子、女[め]獅子です。これら3頭の獅子は、武州御嶽の神、鎮守青沼の神、相州大山の神をかたどるといわれます。獅子といっしょに踊る天狗も登場します。

稻城市内では、矢野口(穴澤天神社)、東長沼(青渭神社)、百村(豊神社)、大丸(大麻止乃豆乃天神社)の4か所に三匹獅子舞

【コース】

京王相模原線稲城駅改札口集合(10:00)～武藏国街道(推定通過地)～妙見尊・妙見寺～南山(里山)～鎌倉道(推定通過地)～大麻止乃豆乃天神社～青渭神社(13:30頃、獅子舞見学)～JR南武線稲城長沼駅 解散(15:30頃)の予定。

※確定の行程等は、チラシとHPでお知らせします。

□ 2012年 10月 7日(日)
ガイド 須知 正度(団員)

が伝えられましたが、現在は矢野口と東長沼だけで行われる極めて珍しい伝統行事です。

近隣には、蛇より行事の妙見尊があり、北から大麻止乃豆乃天神社、青渭神社、穴澤天神社と延喜式内古社が並び、古代道(武藏国街道)や鎌倉道が通り、かつては交通の要衝だったと思われます。

珍しい伝統行事見学と周辺の歴史散策に奮ってご参加を!

連絡先 / 須知 正度 ☎ 090-3695-7580

字「木曾面」と家名(屋号)「けえどう」 から古代東海道のルートを探る

【内容】

乞田川の一部を木曾面川と呼び、これに架かる橋の一つを木曾面橋と言ったという。

ちなみに、「面」の意味するところは、「字源」では、むく、むかふ、かたむき(方面)などとなっている。一方、多摩市の古老井上庄吉翁の著書「野翁小話」によれば、関戸村と連光寺村との境は、みゆき橋でこの橋の下流にもう一つ橋があって、往古この橋を渡る古い道が富澤屋敷に通じる道だそうだから、昔の木曾面屋敷の傍らを過ぎる古道とあうのである。この道は、古代東海道(または矢倉沢古往還)などとも呼ばれた、武藏の国

【コース】

京王線聖蹟桜ヶ丘駅西口改札集合(10:00)～字木曾面～春日神社～バスで小野路へ～井ノ花～野津田公園～織部谷～図師バス停 解散(15:00頃) 各自弁当を持参ください。

小雨決行しますので、雨具の用意もお願いします。

□ 2012年 10月 28日(日)
ガイド 中丸 三次(団員)

府から相模の国府へ通じる古代東海道夷参コースと言われ、このコース上の大蔵(町田市大蔵町)の字「井ノ花」に街道を意味する屋号「かいど」の須崎崇宗家がある。さらに山崎町(町田市山崎町)の織部谷には屋号「けえどう」と呼ばれている尾作重夫家があり、道標(みちしるべ)として機能していたと考えられる。したがって字の最小単位が屋号と考えれば、古代道は「字」や「屋号」によって導かれていたと考えられる。これを検証し、古代道確定の一手法として「字」、「小名」、「屋号」等からその在り処を推定してみます。

連絡先 / 中丸 三次 ☎ 042-676-3724

好評!月例ウォーキング

多摩よこやまの道を歩こう!

- 7月14日(土)
- 8月11日(土)
- 9月8日(土)
- 10月13日(土)
- 11月10日(土)
- 12月8日(土)

参加費 / 団員300円、一般500円

ガイド:須知正度(団員)(連絡先 090-3695-7580)

【東コース】7月14日、9月8日京王相模原線若葉台駅9:00集合、
11月10日 同 9:30集合
コース1:丘の上広場~防人見返りの峠~並列古道跡(古代東海道跡)
~古道五叉路~別所桜並木~京王多摩車庫方面へ
コース2:丘の上広場~天王の森~白山神社~旧多摩聖蹟記念館~
聖蹟桜ヶ丘駅方面へ(又は、天王の森~若葉台公園~上谷戸
/三沢川沿い遊歩道~稻城駅方面へ)

【内容】

毎月定期的にミニ・ガイドウォーキングとして実施しています。「よこやまの道」は多くの古道と重なり交叉し、それらの痕跡や伝説も多く、古道や歴史に関心のある方々に愛好されています。また、里山の自然が残っており、四季の移り変わりを楽しめます。野鳥や植物観察もしながら、この豊かな道を歩き・感じ・味わってみませんか? 東・西のコース(下記の事例参照)を隔月交替で、毎回、行程を変えて歩きます(詳細は、チラシで告知)。

ガイドが伝統行事や「数」の謎解き、季節の万葉歌朗詠・解説を行います。

【西コース】8月11日、10月13日小田急多摩線唐木田駅9:00集合、
12月8日 同 9:30集合
コース1:総合福祉センター~(奥州廻道)~奥州古道(常磐ルート)
~正山寺・鶴見川源流~長池公園~京王堀之内駅へ
コース2:総合福祉センター~(奥州廻道)~小山田緑地~奥州古道
(中尾道)~石仏群~一本杉公園~妙櫻寺(鎌倉古道)~
京王多摩車庫方面へ

宮田団長が案内する各地の旅のご案内と座学講座

2012年

7月17日(火)	【2泊3日バスツアー】 「東北エミシ古道探検」 ~19日(木) 《内容》アテルイやモレの砦跡や城柵・古道を巡ります。	〔主催:クラブツーリズム 街道あるき〕
7月27日(金)	座学 「多摩から八ヶ岳への古代甲州道」 13:00~15:30	〔主催:多摩らいふ俱楽部〕
8月3日(金)	座学①「韓国済州島の歴史ロマン」説明会 10:00~12:00	〔主催:クラブツーリズム 街道あるき〕
8月4日(土)	座学②「ヤマトタケル草薙剣と古代サガム王国」 10:00~12:00	〔主催:クラブツーリズム 街道あるき〕 *①②共に新宿西口アイランドタワーのクラブツーリズム・フェスティバル会場にて
8月7日(火)	座学講座「源頼朝・最期の真相」 16:00~18:00	〔主催:朝日カルチャーセンター湘南 * 小田急線藤沢駅前〕
8月21日(火)	座学講座 「善光寺の謎と安曇野の古代遺跡」 15:40~17:40 新宿センタービル内朝日カルチャーセンターにて	〔主催:朝日カルチャーセンター事業部〕
8月23日(木) ~24日(金)	【1泊2日バスツアー】「天空に浮かぶ古街道 車山&八子ヶ峰高原と御射山神社の謎」 《内容》縄文ロードと御柱祭のルーツを高原地帯に探っていきます。〔主催:京王観光〕	
8月26日(日) ~27日(月)	歴史ロマン探検隊 河口湖「清水国明の森と湖の楽園」と「みやたたろう」コラボ企画 ~富士五湖から発見された謎の巨大カヌーと武田信玄の石星の謎~	〔主催:株式会社バリューサポート〕
9月7日(金)	座学講座「江ノ島の不思議~古代の南北ラインの謎~」 15:30~17:30	〔主催:朝日カルチャーセンター湘南 * 小田急線藤沢駅前〕
9月19日(水) ~21日(金)	【2泊3日の旅】「北海道のアイヌ古道を探る~ニセコ羊蹄山の阿倍比羅夫伝説と黒松内・余市の洞窟編~」	〔主催:NHK学園・国立駅前校〕
9月26日(水) ~28日(金)	【2泊3日の旅】「韓国済州島・耽羅王国の歴史探検」 ~古代に韓国と日本は結婚していた? & 徐福伝説を探る~	〔主催:クラブツーリズム 街道あるき〕
10月18日(木) ~19日(金)	【1泊2日バスツアー】「信濃の歴史古道を歩く“善光寺の謎と安曇野の古代遺跡”」	〔主催:郵船トラベル 講座主催:朝日カルチャーセンター事業部〕
11月3日(土) ~4日(日)	常陸国行方フットバス & シンポジウム ツアー参加 ★基調講演は宮田太郎(団長)に決定	〔主催:行方市観光協会・歴史古街道団〕*詳細は後日お知らせします
11月8日(木) ~10日(土)	熊野古道と秦始皇帝の命で渡來した徐福伝説	〔主催:クラブツーリズム 街道あるき〕

■■■以上の問い合わせ先■■■

◎クラブツーリズム 街道あるき

☎ 03-5323-6681

◎京王観光 ☎ 0120-112-615 携帯から ☎ 03-5351-7147

◎朝日カルチャーセンター事業部(新宿) ☎ 03-3344-2041

◎朝日カルチャーセンター湘南(藤沢) ☎ 0466-24-2255

◎N H K 学園 駅前本校

☎ 042-574-0570

◎多摩らいふ俱楽部 ☎ 042-526-7777

◎郵船トラベル

☎ 03-5213-6237

◎(株)バリューサポート ☎ 03-6408-2731

(担当:諸井)

((株)バリューH R 担当:大塚)

歴史・宗教や文学、政治など様々な分野で、常用される「数」に対する考え方、由来を推理してみました。数が象徴する中身あるいは一つ一つの構成要素には意味や具体的なものが対応していますが、なぜ「その数」ということには何の説明も無く当然の如く使用されています。不勉強で、参考となるような文献を知りません。かなり独断と偏見に満ちていると思いますので、お読み頂いた方からのご叱正をお願いします。

私の推理に従って、常用「数」を分類すると、①「手の指の数から」、②「完全数から」、③「陰陽説から」、④「人間の業から」になると見えられます。ここでは、紙幅の関係もあり、二回に渡って、私の推理を述べて見ようと思います。従って、今回は、①「手の指の数から」と②「完全数から」について述べて行きましょう。

(1) 「手の指の数から」

三と五です。な~んだと思われるでしょう。ここでは、改めて述べる必要はありませんが、確認の意味で考えを整理して置きたいと思います。

①三は、三種の神器、釈迦三尊、阿弥陀三尊、三重塔、三位一体、三頭政治、三奉行、三羽鳥など。

手の指、三本から。中指、薬指、人指し指の象徴であろうと考えます。「山」の字もここから来ていると想像され、神が宿るとされる山頂をこの形に表現した絵を時々見かけます。

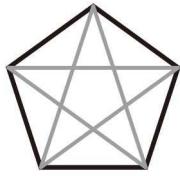
一から三までを足すと「六」です。「完全」に関係する?この事は、後述しましょう。

②五は、五行説、五輪塔、五重塔、五芒星、五大老、五大陸、五色豆、五色沼など。

手の指、五本から。指を自然体より少し拡げて、手のヒラを向こうにすれば、「待て!」で魔除けです。その形は、正五角形に似ています。

正五角形の建物、ペンタゴン(米国防総省)は、魔除けの意味を込めて造られたと言われています。

正五角形の対角線をすべて描いて形作られる图形が五芒星で魔除けの星形です。また、対角線が交わって作る图形も正五角形です。理論上、これらを限りなく、永遠に続けることができます。このことが、宝石等とくにダイヤモンドのカットに応用され、OO7ではありませんが、「ダイヤモンドは、永遠に!」ですよ。な~んちゃって?



正五角形と五芒星



釈迦三尊像(法隆寺金堂)



人間は太古四ツ足で歩いていた。二本足で歩けるようになったのは、今からおよそ一千万年も前だといわれている。直立二足歩行も欠点は、足腰で自分の全体重を支えることにより、どうしても腰に負担がかかることがある。そのため個人差こそあれ、腰痛は人間的一大欠点とされている。

(2) 「完全数から」

六と七がこれに該当すると思います。

完全数とは、自然数の中で、それ自身を除く約数すべての和がその数自身となるような数です。

① 六は、六道、六地蔵、六時(東大寺お水取り)、六曜、六腑(五臓)など、主として宗教(とくに仏教)で使用されています。



六地蔵

六のそれ自身を除く約数は、一、二、三です。これらを合計すると、六です。一から三までの数ひとつが意味を持つと考えても、そのことを表現するのは、和であると思います。

六は、最小の完全数で、宗教では「完全」を追求するという意味だと思います。言うまでも無く仏教はインドが発生地、「ゼロ」の発見など数とのゆかりも深いお国柄ですね。

西欧の神話、天地創造でも「神が6日間で世界を造ったもうた」としています。

②七は、七重の塔、七道(五畿)、七曜、七草、七福神、お七夜、初七日など。

これらは、北斗七星の七から来ていると思います。なぜ、七が象徴的に使用されるのでしょうか?七は、「人間にとて、極めて重要な数だと考えられる」ということを何かの本で読んだことがあります。その理由は明らかにされていませんでした。

そこで、私が勝手に推理してみました。七は、「すべて おさめる」、または「一から七までのひとつひとつが意味を持っている」と見てみました。上で述べたように、このことを表現するのは、和であるとします。一から七までの和(合計)を計算すると、二十八になります。

二十八も完全数なのです。大きさの順番では六の次になります。具体的に見ると、二十八のそれ自身を除く約数は、一、二、四、七、十四で、これらを合計すると、二十八です。月の周期を表す「二十八宿」もこれが由来でしょう。

上で述べましたように、七も、「完全」を表していると思います。余談ですが、多摩市と二十八は縁があります。背番号二十八でプロ野球の「完全試合」を成し遂げられた「江夏豊」さんの引退試合が行われたのが、多摩市一本杉公園にある野球場です。



多摩川河畔を歩いて

奥村辰三(成瀬台)

この永い人間の歴史において、これだけ解決されていない問題はない。こうすれば絶対に腰痛が起らぬるという保証はどこにもないし、薬もなければ、歩かなくて済む方法もない。人間が歩く以上、この問題は絶対に解決されない。

ではどうすればよいか、という疑問がここに残る。それには足腰を鍛えるほかはない。人間いずれは歩けなくなる齢になるのであ

るから、歩ける間に歩こうと二、三年前から実行している。

多摩川河畔を歩いたのは、一昨年の秋のころであった。小田急線和泉多摩川駅に降り立って戸外にでると、強い秋の日差しが肌をさした。多摩川の河川敷きにでると、まだスキの穂が全部出揃っていないが、どことなく秋になった気配が感じられる。川面を見ると、水は流れないように見えても、少しずつ流れているようだ。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず…」、「方丈記」の序が思い出される。会社勤めの頃は、世の中のことこのようには思わなかつたが、水の流れを見ていると、人間社会を見ているように思えてくる。

人の世は、人間が集まって一つの社会を形成している。しかもその人々は、歳を重ねることによって、どんどん消えてゆく。しかし、人間の流れそのものは絶えることなく続いている。川そのものをよく観察してみると、人間の一生と川の流れは非常によく似た点がある。激流岩を噛むような所もあれば、穏やかに流れている所もある。

多摩川は、大きくて真っ直ぐ流れているようでも、堤防に上がってよく見ると、蛇行を繰り返しながら流れている。このような考え方では、何百年たっても、人間の心より離れないことを、「方丈記」は立証している。

また歩くことは、ものを考える最適の場でもある。ギリシャの哲学者たちは、歩くことによって、自分の考えをまとめたと聞き及んでいる。

堤防の道は、二子玉川園の方へと限りなく続いている。人間の視界では遠いように見えても、歩いてみると、存外近かつたりする。実に人間の視界ほど頼りにならないものはない。

昔、多摩川は、献上の布を晒した川だと言われている。献上の布は柔らかくて、光沢がなければならないそうで、多摩川の綺麗な水で晒し、その晒した布を砧の上にたたんで、槌で何回も打つ。

その砧を打つ音が、多摩川沿いで聞かれたという。こうして出来上がった布は、献上に値する布となる。今でも調布とか、砧町という地名が残っている。和泉狛江町には、

多摩川にさらす手づくりさらさらに なんぞこの子のここだかなしき

という歌碑が残されている。

日陰の無い堤防上では、秋の日はまだそうとうきつい。草の生い茂ったところなどでは、まだどこか夏草の匂いがのこっている。道を行き交う人はほとんどいない。

古道人の行くことまれに

秋風禾黍(かしよ)を動かす

唐の詩人が作った詩の一節がフト頭をかすめる。

一人でたどって行く道は長い。東名高速道路の橋脚の下を通り、はるか彼方に国道二四六号線が見える。河川敷きは運動場になっていたり、子供たちの遊び場にもなっている。セイタカアキノキリンソウや月見草の群生地もみられる。遠く自動車のエンジンの音がひとかたまりになって響いてくる。国道が近いせいかもしれない。

国道二四六号線の向こうに、もう一つ鉄橋が見えてきた。あそこまで行けば二子玉川園駅は近い。二子玉川園は岡本かの子の育ったところである。多摩川はかの子にとっては故郷の川である。「多摩川の水源をさかのぼるとき、秩父の山は水晶を産し、その白水晶、紫水晶からしみ出る水が二子の流れをつくる」と、かの子は思っていたという。多摩川河畔には、岡本太郎の作で岡本かの子の文学碑が建っている。

多摩川の流れはまだまだ続く。河口は羽田と川崎を境として流れている。今日の行程は、二子玉川まで約六キロ弱歩いた。このくらいの歩きでは、歩いたうちには入らないが、秋の日は釣瓶落としといわれるほど短い。二子玉川で田園都市線に乗り、長津田駅で下車し、夜道に日は暮れぬと、歩き足りない分を歩いて家路に急いだ。

2012年度 定期総会 開催

今年度の活動方針と新運営委員体制決まる

2012年5月13日(日)午後2時より関戸公民館において、第8回定期総会が開催されました。会員数194名中、当日出席50名、委任状提出者45名のもと宮田団長を議長に選出し、2011年度一般活動報告及び会計決算報告がなされ、石井会計監査の監査報告の後、承認されました。また2012年度活動方針、会計予算、新年度運営委員も、議案通り承認されました。

総会終了後、「歴史古街道団7年間の思い出」と題してスライドの上映会を、宮田団長を案内人として楽しみました。スライドに登場する団員から思い出話ををしていただき、楽しい1時間を過ごしました。

★発団から7年間、顧問をして頂いた藤田道男さん今野耕作さんにはこれまで大変にお世話になりました。お二人の力なくしては当団の活動は成りえませんでした。一同心より厚く御礼申し上げます。

今年度の活動方針

1. 会員相互の交流推進
2. 地域史研究の推進
3. 行政の枠を越えた、歴史街道のコースづくりとそのPR・啓蒙活動の推進
4. 全国フットパス活動への積極的な参加&参画
5. 来年度に「多摩の古街道展」を開催するための準備

2012年度運営委員

- | | |
|--------------|------------------------|
| ○団長：宮田 太郎 | ○運営委員
八木原 まこと 遠藤 邦江 |
| ○副団長：藤田 一彦 | 須永 洋子 田口 俊弥 |
| ○事務局長：濱野 千秋 | 中村 敬子 麻生 直昭 |
| ○事務局次長：須知 正度 | |
| ○会計監査：石井 卓治 | 斎地 カズエ
山崎 ひろ子 |

再度 新年度の年会費納入のお願い

2012年度の歴史古街道団の年会費(3,000円、ご家族はお二人で3,000円)の納入を再度お願いいたします。

年会費は主にウォーキング時の保険と年3回の「歴史古街道ニュース」を会員の皆様にお届けする費用にあてていますので、まだ未納の方は郵便局からできるだけ早く納入していただきたくお願いします。

振込先：口座名 歴史古街道団

郵便振替口座番号
00140-7-445195



歴史古街道団予定表 (2012年7月~10月)

※注 (団)=歴史古街道団 【宮田】=宮田太郎ウォーカー 【学】=講演会・学習会 【ガイド】=ガイドリーダーウォーカー

月日	集合場所・時間	探索・学習テーマ	参加費	申込み	問合せ先
7月8日 (日)	相鉄いずみの線「南万騎ヶ原駅」改札口前10:00	【宮田】“武相国境線”の謎を探る-④、「万騎ヶ原～戸塚編」	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 Tel 090-7002-3431
7月14日 (土)	京王相模原線「若葉台駅」改札口前09:00	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！東コース	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 Tel 090-3695-7580
7月14日 (土)	消費生活センター講座室(ベルブ永山3階)14:00	【学】“地域史情報交換会・学習会”、「これまでの纏めと今後の方向、他自由座談」、担当:須知正度氏	資料代:100円	当日	(団)須知 Tel 090-3695-7580
7月17~19日 (火~木)	横浜7:00 新宿8:15	【旅行】東北地方のエミシ古道を探る(坂上田村麻呂の道とアテルイの跡跡)	クラブツーリズム主催TEL03-5323-6681 http://www.club-t.com/		
7月29日 (日)	厚木文化会館14:00	【学】古事記再検証！古代サガム(相武)王国と厚木の高松山古墳へヤマタケル草薙剣の舞台は厚木だった？！～講師:宮田太郎団長	500円	先着100名	(団)宮田 Tel 090-7002-3431
8月11日 (土)	小田急多摩線「唐木田駅」改札口前09:00	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！西コース	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 Tel 090-3695-7580
8月11日 (土)	関戸公民館8F 第1学習室(VITA8F)14:00	【学】“地域史情報交換会・学習会”、「大栗川流域の古墳について」、担当:秋田慎子氏	資料代:100円	当日	(団)須知 Tel 090-3695-7580
8月23~24日 (木~金)	問い合わせ	【旅行】「天空に浮かぶ古街道 車山&八子ヶ峰高原と御射山神社の謎」	京王観光主催 Tel 0120-112-615 携帯から 03-5351-7147		
8月25日 (土)	関戸公民館8F 第3学習室14:00	【学】鎌倉時代秘史「知られざる義経・弁慶の拠点発見！源氏と熊野武士団・多摩丘陵の地下活動の謎」講師:宮田太郎団長	700円	先着40名	(団)宮田 Tel 090-7002-3431
8月26~27日 (日~月)	問い合わせ	【旅行】歴史ロマン探検隊 河口湖「清水国明の森と湖の楽園」と「みやたたろう」コラボ企画～富士五湖から発見された謎の巨大カヌーと武田信玄の石墨の謎～			
9月8日 (土)	京王相模原線「若葉台駅」改札口前09:00	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！東コース	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 Tel 090-3695-7580
9月19~21日 (水~金)	問い合わせ	【旅行】「北海道のアイヌ古道を探る～ニセコ羊蹄山の阿倍比羅夫伝説と黒松内・余市の洞窟編～」	NHK学園主催TEL042-574-0570		
9月21日 (金)	JR横須賀線「大船駅」南口改札集合10:00	【ガイド】大姫と木曾義高、悲恋の鎌倉を訪ねる	団員:500円 一般:700円	当日	(団)松本 Tel 090-1255-3807
9月26~28日 (水~金)	問い合わせ	【旅行】「韓国济州島・耽羅王国の歴史探検」	クラブツーリズム主催TEL03-5323-6681 http://www.club-t.com/		
9月30日 (日)	相鉄線「三ツ境駅」改札口前広場10:00	【宮田】“武相国境線”的謎を探る-③、「三ツ境のたつ道～緑園都市・万騎ヶ原編」	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 Tel 090-7002-3431
10月7日 (日)	京王相模原線「稻城駅」改札口前10:00	【ガイド】青渭神社の獅子舞見学と稻城の歴史散策	団員:500円 一般:700円	当日	(団)須知 Tel 090-3695-7580
10月13日 (土)	小田急多摩線「唐木田駅」改札口前09:00	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！西コース	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 Tel 090-3695-7580
10月13日 (土)	場所、未定	【学】“地域史懇談会”、テーマ:未定	資料代:100円	当日	(団)須知 Tel 090-3695-7580
10月16日 (火)	JR東海道線「茅ヶ崎駅」改札口ピューブラザ前10:00	【宮田】みえてきた中世意外史！！源頼朝の最期の真実～頼朝は丹後局屋敷で最期を迎えたか～	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 Tel 090-7002-3431
10月18~19日 (木~金)		【旅行】「信濃の歴史古道を歩く“善光寺の謎と安曇野の古代遺跡”」	郵船トラベル主催、担当:諸井 Tel 03-5213-6237 (講座主催朝日カルチャー)		
10月28日 (日)	京王線聖蹟桜ヶ丘駅西口改札集合10:00	【ガイド】字「木曾面」と家名(屋号)「けえどう」から古代東海道のルートを探る	団員:500円 一般:700円	当日	(団)中丸 Tel 042-676-3724
11月3~4日 (土~日)		【旅行】古代遺跡の宝庫“常陸国・行方(なめかた)”フットバス＆シンボジウム“	行方市観光協会、歴史古街道団主催 ――詳細は後日――		
11月8~10日 (木~土)		【旅行】熊野古道と秦始皇帝の命で渡來した徐福伝説	クラブツーリズム主催TEL03-5323-6681 http://www.club-t.com/		

❶編集後記▶ 7月、8月は、暑さを考え、ウォーキングは控えめの行事予定となっていますが、月例のよこやまの道ウォークは、林間の涼しい風を求めて行います。皆様のご参加をお待ちしております。

6月初旬、宮田団長のお父様が逝去され、多くの団員の皆様から弔意をいただきましたことに、団長より御礼を申し上げたいとのことでしたので、誌面を借りてお伝えいたします。またそのために団長ウォーキングが急遽中止となり、当日集合場所に来ていただきました方にはお詫びいたします。編集責任:歴史古街道団(藤田)

【発行】歴史古街道団

事務局:〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮4-7-10
事務局長 濱野千秋 TEL 042-373-7382

歴史古街道団 団長 宮田太郎 TEL 090-7002-3431

ホームページ <http://rekodan.a.la9.jp/>